

第6学年2組 道徳学習指導案

平成19年5月29日(火) 第5校時

授業者 教諭

- 1 主題名 リーダーとしての役割 4-(1) 集団への参加と責任
2-(2) 思いやり
- 2 資料名 ふれあいタイムの振り返りより(自作教材)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

6年生は小学校の最高学年として、学校生活でリーダーシップをとらなければならない場面が多い。集団登校班、清掃班、ふれあいグループ(異学年間の交流グループ)など、小集団ではあるが、さまざまな縦割り班での自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たさなければならない。小学校で異学年集団のリーダーとして経験を積み重ねていくことは、判断力や責任感、思いやりの心を育て中学校で必要となるリーダーとしての資質を養うことにもつながっていくと考える。

道徳の学習は学校生活全体で行うべきものであり、様々な活動と関連させて道徳的実践力の育成を図っていききたい。中でも、ふれあいグループの活動においては、学級ではあまりリーダー性を発揮できない子でも、自ら考え行動し下級生をリードする力が必要になる。また、上級生として思いやりのある親切な対応も求められる。そのような力は簡単に育つものではない。いろいろな経験を積み、相手の反応を確かめながら徐々に身に付けさせていききたい。

本時では実際のふれあいタイムでの体験をふまえて、自分の行動を振り返らせることで、6年生としての責任や相手のことを考えて行動することの大切さについて考えさせ、リーダーとしての自覚と意欲をさらに高めたい。

(2) 児童について

男子14名、女子16名、計30名のクラスである。

5年生の時には、総合的な学習で和田保育園との交流を行った。園児が喜んでくれるような遊びを考えて準備し、分かりやすく説明したり、楽しんでもらえるように工夫したりする活動を行ってきた。保育士の先生方からは、園児への接し方や話し方など、たくさんのことを学ぶこともできた。最後の交流後に書いた、保育士の先生方へのお礼の手紙の中では「この学習で学んだことを生かして、6年生になったら下級生の面倒を優しくみられるリーダーになりたい」と書いている児童が多く見られた。また、園児に対する手紙にも「小学校に来たら、また一緒に遊びましょう。」という、上級生として新1年生となる園児を小学校に温かく迎え入れようとする気持ちが感じ取られた。保育園との交流を通して、相手のことを考えて親切にする態度が育ち、下級生への接し方に生かされていることを実感している。

昨年度の3月に行われた『6年生を送る会』では、6年生に替わってふれあいグループのリーダーとなり、メッセージカード作りやミニ発表会の進行、ダンスなどを中心に行ってきた。初めから自覚を持って意欲的に活動できる児童もいれば、リーダーにはほど遠く、何度となく支援しなければならない児童もおり個人差は大きかったが、一人一役をまかせたことで、会を終えたときには全員が達成感を味わうことができた。

このような経験を積み上げて6年生としてスタートをきった。4月は集団登校や清掃の班長として下級生の面倒を見たり、1年生の給食の後始末を手伝ったり、児童それぞれが何らかの形で下級生にかかわってきた。5月からは1年生の清掃やふれあいグループでの活動が始まり、さらにリーダーとして下級生にかかわっていく場が増えてきた。しかし、児童の中には、中だるみからか集団登校や清掃の班長としての自覚が薄れてきたり、思い通りに言うことを聞いてくれない子がいることにとまどったりする様子も見られるようになってきた。

本時で取り上げるふれあいタイムは、6年生にとっては楽しみと同時にたいへんな面も持ち合わせている。6年生がリーダー性を発揮しないと、時間を無駄に過ごしてしまったり、楽しく活動できなかったりしてしまう。これまでのふれあいタイムでも、計画通りに進まなかったり、時間が余ったりしてどうしたらいいか分からなくて困ったリーダーもいた。しか

し、中にはその場に応じた対応や、用意してきた遊びをアレンジして楽しむ機転の利くリーダーもいた。ふれあいタイムの計画を立てるときも、スムーズに進む班と意見が出なくて時間がかかってしまう班があった。人前ではきはきと話すことができた子もいれば、人前で話すのは苦手だが小さい子の相手は上手にできた子もいた。このように、うまくいったりいかなかったりしたことを学級で情報交換し、お互いの良いところを見習いながら次の活動に生かせるようにしてきた。

6年生全員がいろいろな場面で、リーダーであるという意識を強く持ち、みんなで協力していくことが大切であることを自覚して、積極的に活動していこうとする態度を育てたい。

(3) 資料について

この時期の子どもたちに身につけさせたいことは、最高学年として集団の中で自分がどのような役割を果たせるのかを知り、主体的に実践できる力をつけることである。そのためにはいろいろなことに積極的ににかかわり、成就感を味わうことで自信を見いださせることが大切である。ふれあいタイムはリーダー性を養う上で適した活動であると考え、資料化して授業を行うことにした。

本時に至るまでに、ふれあいタイムを3回行った。5月10日の1回目のふれあいタイムでは、各教室で名簿作りと名前を使った簡単なゲーム、5月14日の2回目は教室での遊び、5月16日の3回目は、教室の3つのふれあいグループごとに体育館で体を動かして遊んだ。3回目の活動後、全児童に下のような振り返りを書いてもらった。

6年生の振り返りの中から活動が「成功したといえる理由」と「成功したとはいえない理由」をいくつか選び<資料1>とした。下級生の6年生に対する感想の中からは、6年生に対して肯定的な感想をまとめて<資料2>とした。

<振り返りカード6年生用>


6年ふれあいタイムふりかえり
年 組 名前 ()

①今日の遊びは、楽しんでもらえたと思いますか。
思う 思わない

②6年生らしくリーダーとしてがんばることができましたか。
できた あまりできなかった できなかった

③今日のグループでの活動は、成功したといえますか。
いえる いえない

★③で答えた理由を書きましょう。
.....
.....
.....
.....




<振り返りカード1年生から5年生用>

ふれあいタイムふりかえり
年 組 名前 ()

○きょうのあそびは、たのしかったです。
とても、たのしかった たのしかった
あまりたのしくなかった

○6年生は、リーダーとしてがんばっていましたか。
とても、がんばっていた がんばっていた
あまり、がんばっていなかった

○あそびのかんそうや、6年生に、
いいたいことをかきましょう。
.....
.....
.....



<資料1> 6年生の振り返り

【成功したといえる理由】

- ・みんなが楽しそうにしていた。
- ・一部の人だけが楽しんでいたので、みんなが楽しめるようなルールに変えてやった。
- ・ボールを女の子や低学年の子にわたしてあげたらうれしそうに投げてくれた。
- ・6年生が協力してできた。

【成功したとはいえない理由】

- ・ドッジボールは、楽しそうにしている子とつまらなさそうにしている子がいた。
- ・ルールを守らず、注意しても聞いてくれない子がいた。
- ・なにをやるのかが、分からない子がいた。
- ・6年生の声が小さかった。

<資料2> 6年生への感想

1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ドッジボールゆるくしてくれてありがとう。たのしかったです。 ・おにごっこたのしかった。おにいさん、おねえさんありがとうございました。これからもなかよくしてください。 ・はんちょうさん、たのしかったです。はんちょうさんつかれましたか。ぼくもつかれました。ではまた、ふれあいたいむでね。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・ドッジボール楽しかったよ。それに、はんちょうさん、がんばっていたからふれあいタイム楽しくできたよ。 ・いつも「あそびがおわり」っていったら、ぼくは「えー」っていつています。いつもふれあいタイムがたのしいです。 ・ないたとき「どうしたの」ってきいてくれてありがとう。これからもあそんでね。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生はボールをなげるのをやさしくなげてくれたので楽しくできました。 ・ドッジビーが楽しかったです。これからもふれあいタイムの時、楽しいゲームを教えてください。これからもよろしくおねがいします。 ・おにごっこが楽しかったです。これからも楽しく遊びたいです。 ・けんけんおには、いつタッチされるかドキドキしてとても楽しかったです。ぼうし落としも楽しかったです。 ・6年生が、にこにこわらっていたのがよかったです。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・ドッジボールをして、わたしは相手にあてられてうれしくて楽しかったです。それから、6年生の人がボールをわたしてくれてとてもうれしかったです。 ・いつもはほとんど当てられないのに、きょうは当てられたのがうれしかったです ・6年生はふざけている人を注意していてよかったと思いました。 ・リーダーさんはみんながんばっていました。 ・きょうは、前よりもみんなとなかよくなれたと思います。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生はいつも1年生に優しくボールをあげたり、名前をゆっくり言ってあげたりとても優しいです。楽しいゲームこれからもよろしくお願いします。 ・1年生の頭にボールがぶつかって泣いているとき、6年生が声をかけていたのでよかったです ・低学年がけがをしないようにしていたところが、がんばっていたと思います。 ・6年生はとてもがんばっていて、わたしもそんな6年生になりたいと思いました。 ・まちがったやりかたをしている人に注意してあげていてよかったと思います。5年生は、6年生を見習ってがんばります。 ・6年生は、いつもいろんな遊びを考えてすごいなと思います。わたしが6年生になったらお手本にしてやりたいです。 ・6年生になったらたいへんなんだなと思いました。わたしもがんばりたいです。

(4) 指導について

高学年の部会テーマ「自分の考えを持ち、たがいに深め合える集団づくり」をめざす取り組みとして道徳の授業では、モラルジレンマの資料『委員会活動』を使って二つの道徳的な価値の狭間でどうすべきかを真剣になって考え、思いを伝え合う授業を行った。ここでは、ディスカッションしながら自分の考え方を深めたり、多様な考え方に触れて考え方を広めたりすることができた。今後も道徳的ジレンマ（価値葛藤）に陥るような資料を用いた授業を取り入れていきたいと考えている。

本時の手だてとしては導入で、写真を見ながら今までのふれあいタイムのことを振り返り、回を重ねるごとに良くなってきたこともあるが、困ったこともあったことなどを思い出させる。考える場面では読み物資料ではなく、3回目のふれあいタイムの6年生の振り返りをまとめたものを<資料1>として提示し、実際の活動に合わせた思考ができるようにした。「3回目のふれあいタイムは成功したといえるかどうか」という発問を投げかけ、「いえる」か「いえない」かで理由をつけてお互いの意見を交換する。同じ班のメンバーでも「いえる」と「いえない」に別れる班もあれば、全員が「いえる」と答えた班もある。理由を聞き合うことで「成功した」といえるようにするためには、これからどうしたらいいのかをしっかりと

考えさせたい。その後で、下級生の6年生に対する評価が思った以上に高いことを数で示し、がんばりを認めてもらえていることを素直に喜ばせたい。＜資料2＞としては、下級生の感想の中から、ふれあい活動をととても楽しみにしているというものや、6年生に対する感謝の気持ちが書かれているもの、5年生はお手本として見ているというものを示す。6年生にとっては、たいへんなことも多いが、下級生にとっては楽しみな時間であり、6年生に対して大きな期待も抱いていることを実感させ、次もみんなのためにもっとがんばろうという意欲を持たせたい。また、わずかではあるが満足していない子がいること、「とても楽しかった」「とてもがんばっていた」まではいかなかった子がいることを知らせ、これからのふれあいタイムではどのようなことに気をつけていけばよいのかをじっくりと考えさせたい。ワークシートに書いたものを発表し合い、役割を果たすということはどういうことなのかをクラス全体へ広めていきたい。

始業式後の生活ノートに、校長先生からのお話を聞いた感想として「校長先生に“和田小学校はすばらしい学校です”と言ってもらえるように6年生としてがんばりたい」と書いている児童が数人いた。6年生は日頃から学校中の先生方に注目される存在であり、学校の代表として活躍が期待されている存在でもある。終末で、校長先生から励ましの言葉をいただくことは子どもたちの心に深く響くものであり、活動への意欲、道徳的実践力を高めていくものと考ええる。

【学校生活におけるリーダーとしての活動場面と関連する道徳授業（本時まで）】

	活動場面	主題名・資料名	中心価値・ねらい
4月	集団登校 町内児童会 清掃班長会 委員会活動 1年生の給食の後始末手伝い	友だちとのかかわり 『オトちゃんルール』	1-(6)個性の伸長 一人ひとりの違いを受け入れ認め合う態度を育てる。
5月	登校班長会 1年生清掃開始	責任ある行動 『委員会活動』 モラルジレンマ教材 (2時間配当)	4-(2)公德心・規則の尊重 2-(2)思いやり 委員長として責任ある行動をとるか、下級生に対する思いやりを優先するか二つの価値について話し合い、道徳的判断力を高める。
	第1回 ふれあいタイム (名簿作りと名前ゲーム)		
	第2回 ふれあいタイム (教室での遊び)	役割の自覚 『そうじ班長の悩み』	4-(1)集団への参加と責任 4-(6)愛校心 班長としての役割を自覚し、協力して責任を果たそうとする心情を育てる。学校生活をよりよくするためにできることを実践しようとする態度を育てる。
	第3回 ふれあいタイム (体育館での遊び)		
	第1回 ふれあい集会 (ならびっこゲーム) 《運営委員会》	リーダーとしての役割 『ふれあいタイムの振り返りより』 〈本時〉	4-(1)集団への参加と責任 2-(2)思いやり リーダーとしての役割を考え、積極的に下級生にかかわろうとする意欲を育てる。

4 本時のねらい

リーダーとしての役割を考え、積極的に下級生にかかわろうとする意欲を育てる。

5 準備物

ふれあいタイムの振り返り、下級生の感想（テープ）、ふれあいタイムの写真、ワークシート
CDラジカセ、プロジェクター

6 本時の展開

	学習活動（○主な発問・予想される児童の反応）	支援（・）と評価（☆）
気づく	<p>1. 1回目から3回目までのふれあいタイムの活動を振り返る。 ○今までのふれあいタイムのことを思い出しましょう。</p>	<p>・プロジェクターを使って写真を見せることで振り返りやすくする。</p>
考える	<p>2. 3回目のふれあいタイムを振り返り話し合う。 ○3回目の体育館でのふれあいタイムは成功したと「いえる」が19人、「いえない」が11人でした。いえるか、いえないかを理由をつけて話しましょう。</p> <p>「いえる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが笑っていたし、汗をかくほど動き回って楽しそうにしていたから。 ・泣いている子に優しく声をかけてあげられたから。 ・ドッジビーの数を増やしたり、女の子も投げやすいルールにしたらみんなが投げられるようになったから。 <p>「いえない」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男子は楽しそうだったけど、高学年の女子や小さい子が楽しんでいなかったから。 ・班の6年生がみんなで協力したとはいえないから。 ・説明の音が小さくて、遊びのルールが分からずに泣いている子がいたから。 ・先生の助けを借りてしまったから。 <p>3. 下級生が6年生をどう見ていたかを知り、これからのような態度をとればよいかを考える。 ○1年生から5年生の振り返りで「遊びが楽しかった」「6年生はがんばっていた」と感じていた人は135人中何人ぐらいだったと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しそうに遊んでいた子が多かったから、100人ぐらいだろう。 ・半分の60人ぐらいじゃないかな。 <p>○135人中「遊びが楽しかった」が132人で、内訳は「とても楽しかった」が98人、「楽しかった」が34人、「あまり楽しくなかった」が3人。「6年生はがんばっていた」が131人で内訳は「とてもがんばっていた」が84人、「がんばっていた」が47人、「あまりがんばっていなかった」が4人でした。</p>	<p>・ネームプレートを各自が「いえる」「いえない」のところに貼ることで自分の立場を明確にする。</p> <p>・発表することによっていろいろな見方、感じ方があることに気づくことができるようにする。</p> <p>・グループごとに活動内容が違うが、全体ではどのように評価されたかを予想することで、結果を聞く緊張感を高めるようにする。</p>

<p>深 め る</p>	<p>1年生から5年生の「ふりかえりカード」を読みましよう。</p> <p>◎これからのふれあいタイムで、6年生としてどのようなことに気をつけていけばいいか考えましよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年生にとって、お手本となるようにしっかりやる。 ・さびしそうにしている子がいないか、全員の様子に気を配る。 ・みんなが楽しめるような遊びやルールを工夫する。 ・活動の終わりにみんなの感想を聞いて、次に何を計画するか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの感想をテープに録音して聞かせ、より喜びが大きくなるようにする。 ・満足していない4人の子や「とても…」まではいかなかった子たちの気持ちも考えて、期待に答えるためにはこれからどうしたらよいか、各自がワークシートに書きじっくりと考えられるようにする。 <p>☆ふれあいタイムで積極的に活動しようとする意欲を持つことができたか。 (ワークシート, 発表)</p>
<p>高 め る</p>	<p>4. 校長先生からはげましを聞く。 ○校長先生のお話を聞きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめとして校長先生からはげましの言葉をかけてもらい、活動への意欲をさらに高める。